

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)

『アジア・アフリカ諸地域に関する研究者養成の国際連携体制構築』

平成 20 年度派遣報告書

平成 19 年度入学

東京外国語大学大学院地域・国際学科

地域研究コース

博士前期過程 細淵倫子

【派遣先機関】

インドネシア大学教養学部

受入教員：ウントゥン・ユドヨノ教授

【派遣期間】

2008 年 4 月 23 日から 2009 年 4 月 24 日 (12 ヶ月)

【研究テーマ】

ジャカルタ南部、パサール・ミンゲー地区における下層社会とネットワーク：下位階層住人ネットワークの成立

【本研究の目的と意義】

本研究は、インドネシアの首都ジャカルタ南部パサール・ミンゲー地区における、下位階層住人ネットワークを論じるものである。本研究の目的は、都市ジャカルタに存在する地域と階層に基づいた下位階層住人ネットワークがどのような過程を経て成立し、機能しているのかを解明することにある。

1998年まで続いたスハルト政権下では、ジャワ人の国内移住政策が行われ、インドネシア各地で民族ごとの住み分けがなされていた。その一方、都市への移住は厳しく規制、整備され、スハルト政権前に移住した住人の血縁ネットワークを中心に民族ごとの居住パターンが成立していた。そのため、ジャカルタで起こる様々な事象は、それまでの村落研究で用いられていた血縁や民族のネットワークに基づき説明されている。しかしながら、強権的なスハルト体制が崩壊し規制が緩やかになった現在のジャカルタでは、地方から多くの人が仕事を求め殺到し、民族が混合し、雑多に居住している。そのため、血縁ネットワークをもとにした民族ごとの居住空間は、縮小していき、新しい居住空間やコミュニティが存在し始めている。例として、ジャカルタの南部、パサール・ミンゲー地区には下位階層住人ネットワークが誕生している。この下位階層住人ネットワークの解明は、スハルト政権崩壊後のジャカルタでの居住、労働、生活パターンを説明することにつながる。また、現在のジャカルタでの貧困、非雇用、労働の問題への解決策を提示するとともに、都市研究に対して、新たな分析方法や概念を示唆するであろう。

#### 【本派遣の目的】

2007年9月、パサール・ミンゲー地区のPKK（国家組織内にある女性による社会活動）での参与観察調査において、下位階層住人と中位階層住人からなる階層複合コミュニティの実現を調査。2007年12月、パサール・ミンゲー地区市場、最大の労働組織で参与観察を行い、華人中位階層下層住人と下位階層上層住人の労働システムと市場におけるコミュニティ形成の過程を調査。本派遣では、下位階層住人中層と下位階層下層住人に焦点を当て、この中で生じるネットワークと彼らの生活スタイルの変容を実証的、具体的に論じることを目的としている。

#### 【主な活動】

2008年4月から2009年4月の間、下位階層住人のコミュニティに入り、複数の労働集団で長期におよぶ参与観察と2回のアンケート調査を行った。調査期間中には、インドネシア大学の現地指導教授に指導を受けながら、社会学、人類学、社会言語学分野の教授や院生とのディスカッションを行い、それと並行し、アンケート調査分析、コミュニティでの調査を円滑に行うためのジャワ語とオランダ語の習得学習を進めた。以下の10点が主な活動である。

##### 1) 研究テーマの指導

2008年4月から2009年4月の期間、インドネシア大学教養学部インドネシア語学科にて、インドネシア語での論文作成を行った。この作業を通して、インドネシアでの最新研究状況を把握できた。また、インドネシア語の学術的能力の向上に成功したことで、

インドネシア語にて下位階層住人に関するいくつかの論文を執筆し、インドネシア大学に提出した。

- 2) 社会政治学部社会学科、コミュニケーション学科(大学院ゼミを含む)にて研究に関する授業を聴講

「Kesenjangan dan Eksklusi Sosial (社会格差と社会排除)」「Modal Sosial dan Civil Society (資本主義と市民社会)」など計6つの授業を聴講した。「Kesenjangan dan Eksklusi Sosial」の授業からは、インドネシアにおける「弱者」とされる人々の事例に触れ、毎週プレゼンテーションやディスカッションを行うことで、インドネシア、ジャカルタに存在している階層間の固定概念、学術的分野で問題にされている「弱者」に関わる問題を学んだ。また、「Modal Sosial dan Civil Society」では、資本主義社会の中で成立する市民社会について学習し、インドネシアで成立し得る市民社会の形を把握することができた。すべての講義が、本研究を進めるための糸口になった。

- 3) ジャワ地方から移住してきた下位階層住人に対するアンケート実施、分析のためにジャワ語と社会言語学の授業を受講、聴講。

アンケート作成、配布にジャワ語を用い、社会学だけでなく、社会言語学的考察を加えることで、先行研究では明らかにされてこなかった地方出身者の年ジャカルタでのアイデンティティ変容を明らかにすることに成功した。

- 4) オランダ語授業を受講

2009年1月から4月までオランダ語授業を受講したことで、オランダ政府時代の貧困に関する政府資料を分析することができた。また、オランダ政府時代の文書からパサール・ミングーの歴史資料収集にも役だった。

- 5) パサール・ミングー地区の民族分布マップを作成

- 6) パサール・ミングー地区に長年済んでいる住人に聞き取り調査

資料の少ないジャカルタの歴史を聞き取り調査を行ったことで、より具体的に把握することができた。

#### 7) 複数の下位階層住人職業集団にて聞き取り調査と参与観察

2008年は、下位階層上層住人の労働、雇用状況、アイデンティティ変容を調査するため、パサール・ミンゲー地区に、いくつかの労働組織にて参与観察を行った。2009年は、パサール・ミンゲー地区にある下位階層中層、下層住人の職業である、①露天商やオジェック（バイク型タクシー運転手）の集団にて参与観察を行った。下位階層住人のなかでも構成の数が多し露天商と多大な情報、ネットワーク網所持者であるバイク型タクシー運転手の生活に密着して参与観察と聞き取り調査は、パサール・ミンゲー地区のネットワーク変容を知るために格好の材料となり得た。②夜のパサール・ミンゲーに登場する同性愛者集団に聞き取り調査をも行い、パサール・ミンゲー地区に起こるセクシュアリティの変容、生活変化を裏から知ることができた。③「貧困証明書」受理家族へ聞き取り調査を行うこともできた。これにより、下位階層ネットワークの構造、そして、下位階層住人の生活・世界観の分析に成功し、彼らを下層せしめているものの原因を発見できた

#### 8) パサール・ミンゲー固有の「団体」の使用状況とそのネットワークを探るため、政府組織、民間組織のトップにパサール・ミンゲーについて聞き取り調査

#### 9) ジャワ中部スマラン地方山岳部で参与観察

多くの下位階層住人の出身地であるジャワ中部、スマランの農村へ2008年から2009年の間に4回、計1ヶ月にわたる参与観察を行った。これにより、下位階層住人の生活、アイデンティティ、所有ネットワーク変化を知ることができた。

#### 10) 下位階層住人に対するアンケート調査の実施

2008年4月から12月にかけておこなった、パサール・ミンゲー地区の市場で働く、18歳から27歳のジャワから移住してきた下位階層上層住人へのアンケート調査を実施した。この結果から、村落から都市への移住で生じるアイデンティティの変容や帰属コミュニティの変化を分析した。また、下位階層住人ネットワークの内実を知るために、2009年1月から3月にかけて、下位階層中層住人、下位階層下層住人に対してアンケ

ート調査を行った。このアンケート調査によって、2008年から行っていた調査の結果をより具体的にし、下位階層住人の生の声を得ることができた。

#### 11) 参考文献収集

本派遣で収集した資料は、以下の通りである。

貧困関連書 31冊

階層、労働関連書 22冊

ネットワーク論関連書 27冊

その他 52冊

尚、本研究の一環として行ったパサール・ミンゲーにおけるジャワ人若年層の言語使用分析は、論文「Pemakaian Bahasa Gaul dalam Kaum Remaja Jawa di Pasar Minggu」の形にし、インドネシア大学教養学部人文学部に提出、12月20日に最優秀賞を受賞している。本論文は、より詳しいジャワ言語分析を加え、インドネシア大学人文学部研究誌に投稿予定である。

#### 【今後の成果と課題】

この派遣調査から、ジャカルタ南部、パサール・ミンゲー地区には、下位階層ネットワークが存在していることを実証した。この下位階層ネットワークは、血縁、民族のつながり、同質的嗜好、同職業団体のコミュニティを超えた、地域に密着した「下層」アイデンティティ昇華によって起こったネットワークである。この下位階層ネットワーク創出現象は、援助される側としての「閉ざされた下層」からの開放、市民権獲得へとつながる動きである。また、本派遣調査成果は、先行研究で行われてきた村落研究の延長上のジャカルタ研究へ新しい示唆を提示することが期待できるとともに、ジャカルタ社会に存在している下位階層へ当てられる視点、そこから生じる援助策へ新しい解決策をも提示できるであろう。

今後は、都市における同様な多元化、変化するコミュニティへのより深い考察を可能にするため、ジャカルタ周辺の他地域、ジャカルタ以外の地方都市で同様の調査を行い、より一般的現象として分析を行いたい。それと同時に、ジャカルタにおける下位階層住人の2009年総選挙への投票行動からわかった、政治への参与行動や市民権利獲得など市民としての下位階層住人の現状を考察し、修士論文にて研究予定である。